

小倉第一病院が目指す病院像

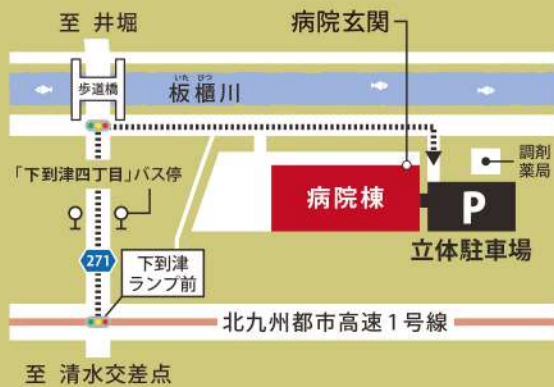


私どもの病院は、1972年に透析クリニックとして誕生（北九州クリニック）しました。1985年に現在の小倉第一病院に改組した後も、透析医療を中心として成長し、慢性腎臓病の発症初期から透析患者の終末期医療まで、慢性腎臓病のほぼ全てのステージで医療を提供できる体制を構築してきました。現在も透析医療中心の体制ではありますが、2013年に循環器内科医、2015年に形成外科医、そして2021年に外科医、皮膚科医が常勤医となりました。バスキュラーアクセスの血管内治療やフットケアなど、対応できる透析合併症の幅を広げていくとともに、それぞれの専門医の得意とする分野でも地域に貢献していきたいと思っております。 理事長・院長 中村秀敏

色に込めた想い……………各階のカラーイメージには、パワーストーンの色合いを用いました

- …1・2・5階 アンバー : 健康のお守り「生命力」「疲れを癒す」「元気な体を保つ」
- …3階 エンジェライト : 天使の様な優しいエネルギーを持つ石「大切なもの」「愛や自身の価値に気付く」
- …4階 翡翠 : 成功と繁栄をもたらす石「豊かに栄える」「仕事や家族との時間を豊かに」

交通のご案内……………新病院情報ページ(交通MAPあり)▶



- バスでお越しの方
 - ・「下到津四丁目」……………徒歩約3分
 - ・「金田陸橋西」……………徒歩約9分
- お車でお越しの方
 - ※病院敷地内の立体駐車場をご利用ください
 - ・立体駐車場(患者優先)…91台
- JR小倉駅からお越しの方
 - ・タクシーにて……………約15分

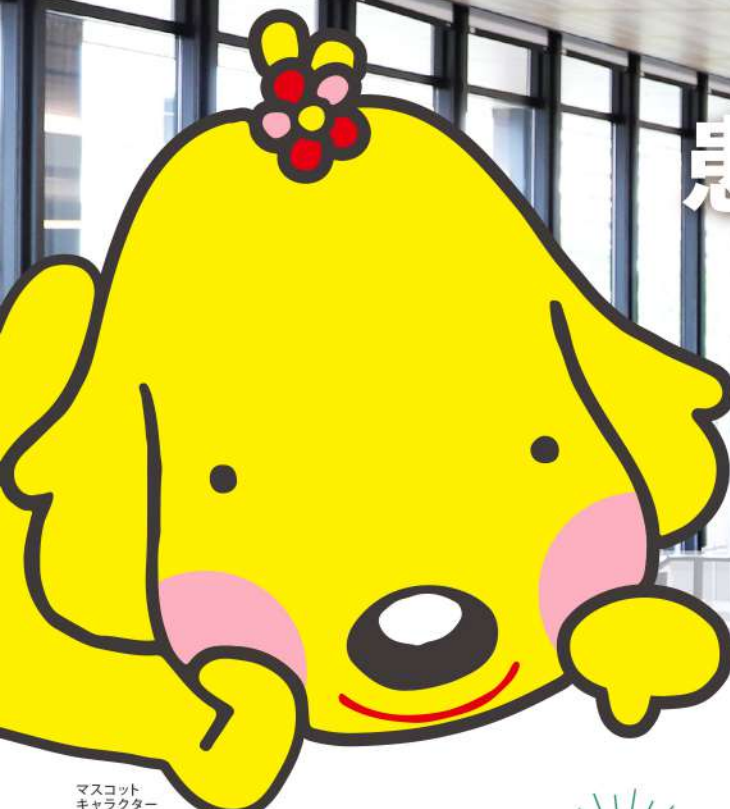


小倉第一病院

Kokura Daiichi Hospital

- 1F: 一般外来 / 2F: 透析室(外来)
- 3F: 一般病棟-透析室(入院) / 4F: 医療療養病棟-リハビリテーション室
- 5F: 高齢者向け住宅(令和4年3月サービス付き高齢者住宅登録申請予定)





マスコットキャラクター「ハッピー」

設計コンセプトは「セカンドハウス(第2の住まい)」 患者さんに優しく、安らぎを感じる透析空間に!

透析患者さんは週に3回、年間156回の通院治療をされるため「第2の住まい」だと思っていただけるように、病院らしくない外観や内装となるような設計を依頼しました。自然の材質を多く用い、親しみやすさを意識しています。透析室の床には段差を設け、窓側の1段下がったエリアにはチェアタイプの透析ベッド30台を配置しました。

それぞれを半個室的な空間とし、4~6時間の治療時間を自身の空間でおくろぎいただけるようにしました。病院周りには植栽を多く植え込み、透析室の広い窓から見える板櫃(いたびつ)川の風景と四季を感じられる院内外の緑で、安らぎを感じられるよう工夫をいたしました。



院内のガラス面の所々に衝突防止のための表示としてハッピーちゃんが描かれています。各階に1つだけ上図のような舌出しハッピーちゃんがいます。ぜひ、探してみてくださいね!

新しく取り入れたサービス・機能



1. 院内感染対策の一環として、清掃管理部を新設

透析患者さんは免疫力が弱く、死因の第2位が感染症です。日本感染管理支援協会の土井英史理事長に監修していただき、設計の初期段階から構造、職員動線、患者動線、環境表面の材質、清掃管理などに意見をいただきました。透析のベッド間隔も十分に確保し、新型コロナウイルス感染予防にも効果を発揮できると考えています。環境サービス室も新設します。環境表面の清掃に関して院内で統一基準、マニュアルを作成して環境管理の徹底を図ります。

2. フットケア専用のスペース、設備を新設

形成外科や皮膚科が担うフットケアの処置に対応できるように、外来診察室と外来透析室にそれぞれ炭酸泉浴の設備を新設しました。下肢末梢動脈疾患は下肢切断のリスクが高い疾患であり、透析患者の合併症として重要です。血流改善、高血圧、冷え性対策、保清等の効果が期待できます。フットケア専用のスペース・設備があり、下肢末梢動脈疾患に関わる透析医、循環器内科医、形成外科医、皮膚科医が連携する体制の透析施設となりました。

3. キッチンスタジオを新設

以前より腎臓病、糖尿病の栄養指導には力を入れてきましたが、実際の調理まで直接指導が可能となるキッチンスタジオを新設しました。一人暮らしの方でも、安心して治療食を調理できるよう取り組んでいきたいと考えています。また従来から実施していた集団栄養指導用の動画撮影にも、このスタジオを活用しようと思っています。



目指す病院像実現のためのしかけ

透析医療の黎明期に比べ、透析患者さんは30年、40年と長く治療を続けられ、80歳、90歳以上で導入する方が増えてきました。そのため長期透析による合併症や、サルコペニア・フレイルに起因する通院困難の問題があります。

- ① 患者さんの通院環境を向上させるための最大のしかけは、病院横に建てた立体駐車場(91台収容)から渡り廊下を設けたことです。駐車場から病院の透析フロア(2階)に直接入れるようにし、通院送迎車も、立体駐車場の2階で患者さんの乗降が可能となっています。
- ② フロアは1階が外来や検査、2階が外来透析室、3階が一般病棟、地域包括ケア病床と入院用透析室、4階が医療療養病棟とリハビリテーション室、5階が高齢者住宅の構造となっています。一般外来患者さん、血液透析通院患者さん、入院患者さんが動線上ほとんど接することのない、プライバシーに配慮した設計となっています。
- ③ 腎臓リハビリテーションという言葉もあるように、透析患者や慢性腎臓病患者を対象とした、リハビリテーションのニーズが高まっています。リハビリ室は、従来よりも約4倍の広さとなりました。



▲1. 土井英史氏による感染対策のための院内ラウンド



▲2. フットケアに特化した設備(2階透析室)



▲3. キッチンスタジオと透析患者さんの食事サロン(2階)



▲① 立体駐車場から治療棟へ、渡り廊下で直接入ることが可能



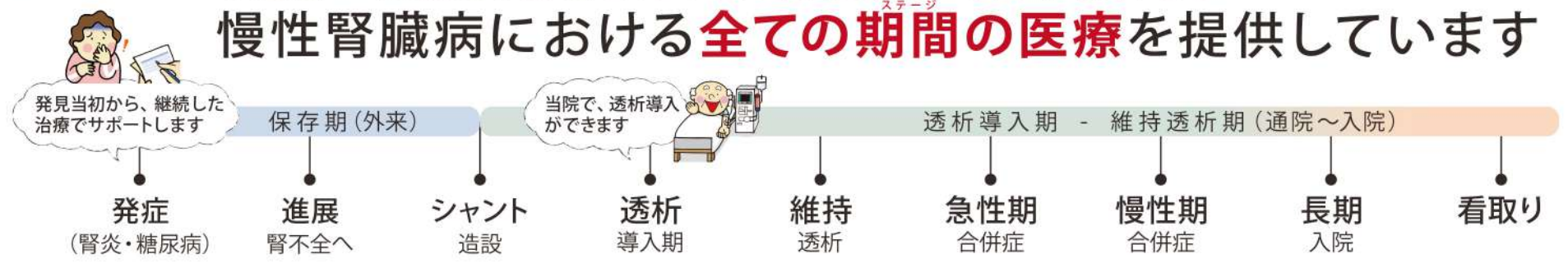
▲② 病室から入院用透析室へと水平移送が可能(3階病棟)



▲③ 透析患者さんのQOLの維持・向上にむけて(リハビリ室)

当院の特徴

小倉第一病院は、患者さんの完全社会復帰を基本精神とし、慢性腎臓病における**全ての期間の医療**を提供しています



▲3. キッチンスタジオと透析患者さんの食事サロン(2階)

▲③ 透析患者さんのQOLの維持・向上にむけて(リハビリ室)